

原始 古代

石川町の文化財



(土器出土状況)



(人面付土器)

鳥内遺跡 (県指定史跡)

縄文時代から弥生時代にかけての遺跡であり、特に、弥生時代中期の再葬墓（遺体を一旦骨にしてその後土器の中に再び葬ること）を多く出土した遺跡として全国的にも有名です。また、東海地方の水神平式土器、九州地方の遠賀川系土器が出土していますが、これらは直接運ばれたものと考えられています。したがって、弥生文化（稲作文化）北上の様子が鳥内遺跡から知ることができます。さらに、全国でも40点程しか出土していない人面付土器が1点出土していることは注目されます。



悪戸古墳群 (県指定史跡)

横穴式石室を持つ9基の円墳からなる群集墳です。これらのうち、周りに溝が確認できる古墳もあります。開口している1号墳は墳丘の長さが最大で約20メートルで、石室を巨石で築いています。鉄鏃・刀子（小刀）・釘などが出土しており、築造年代は7世紀初頭と考えられています。



大壇古墳群 (県指定史跡)

前方後円墳2基と円墳7基からなる、6世紀初頭から7世紀初頭にかけての古墳群です。最大の前方後円墳（6世紀初頭）は、墳丘部の長さが約39メートルあり、周溝の跡も認められます。

これらの古墳に葬られたのは、この地方を支配した豪族と考えられています。